



鶴岡シルクの復活

～廃棄されるセリシンをジェルネイルに～

山形県立致道館高等学校

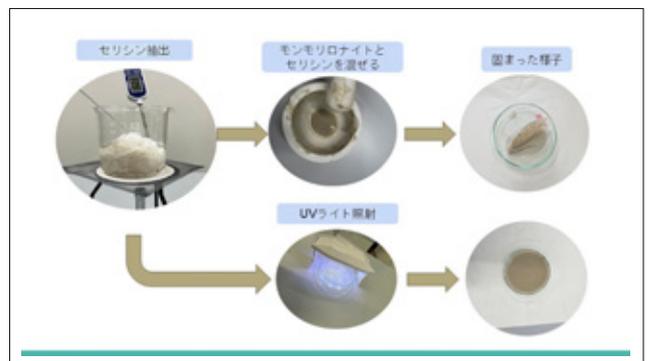
本間 凜花 / 伊藤 寛都

CONTENT 発表内容

皆さんは鶴岡とシルクが深い関係にあったことを知っていますか。戊辰戦争で新政府軍に敗れた庄内藩は刀を鋏に変え、荒地を開墾し、鶴岡のシルク産業の発展に大きく貢献しました。後にそれは「侍シルク」と呼ばれるようになります。しかし現在は化学繊維の発展に伴い、シルク産業は衰退してきています。

そこで私たちが考えたのは、鶴岡シルクを使いジェルネイルを作ること、産業発展に貢献したいというアイデアです。ジェルネイルはUVやLEDライトを照射することで硬化します。3～4週間ほど持続しますが、その強度を実現するために人によってはアレルギー反応を引き起こす物質が入っているため、みんなが安心安全に使うことが難しくなっています。

そこで肌に優しいシルクを使うことで、爪にも優しいジェルネイルができます。また今回はシルクの中でも捨てられてしまうセリシンという物質を使うことで、エコにもつながるのではないかと考えました。シルクを構成する物質の1つであるセリシンは、手触りがごわごわしてしまうため、シルクの生産過程でアルカリで除去されています。一方でセリシンは水に溶けや



すく、高い保水性・吸水性があり、さらに人の肌への親和性を持つという特徴があります。

商品名は「シルクネイル」にしようと考えています。ボトルのデザインは山形県や鶴岡市の有名デザイナーに依頼します。さらに県内外のたくさんの方に知ってもらうため、鶴岡市のふるさと納税の返礼品として置いていただけないかと考えています。また、私たちは「シルクネイル」の最大の特徴であるアレルギー反応を引き起こす成分がないことから、医療や介護関係者の方、アレルギーで悩む方にも「シルクネイル」を楽しんでいただくために、実店舗での販売も目指しています。

「シルクネイル」で鶴岡・山形を盛り上げたいです。

COMMENT 審査員コメント



株式会社ジョイン専務取締役 武田 靖子

不要とされるセリシンをどう活かすかを考え、いろいろな実験を繰り返された点が素晴らしいと思います。誰でもおしゃれを楽しめることはとても大切で、アレルギーがあって諦めている方にこのような商品が届けば良いと思いました。



山形県教育局教育DX推進監(兼)教育次長 米野 和徳

聞き慣れない言葉がいくつか出てきましたが、非常にわかりやすい説明でした。地域にゆかりのあるシルク産業に着目し、さらに廃棄されるものの活用にチャレンジし、新しい価値を創造しようという発想が素晴らしいと思いました。